

# 第81回 市民公開講座

総合診療科



Tokyo Medical University Hospital

## 第一部



# 風邪

## — 病院に受診したほうがよいのは？ —

解説 原田 芳巳 総合診療科 講師

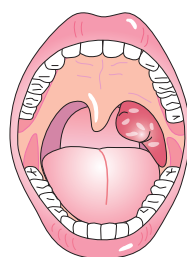
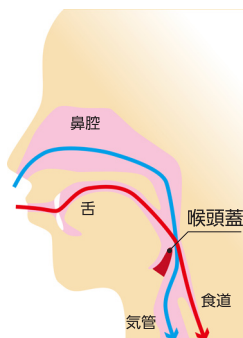


風邪を「万病のもと」と言いますが、心不全も咳や息苦しさ等の風邪のような症状があるように、風邪のような症状で始まる病気も多くあります。そのため、普通の風邪とそれ以外の病気を見分けることが大切です。

### 風邪症状を呈する、見逃してはいけない病気 Killer sore throat (生命にかかわるのどの痛み)

#### ●急性喉頭蓋炎

空気の通り道である気管と、食物の通り道である食道が交差するところにある喉頭蓋と呼ばれる部分が腫れ、急速に窒息死する恐れもある超急性感染症。症状は、喉頭蓋の腫れ、急性の発熱、強い咽頭痛、声がれ、水や唾液を飲み込むことが困難になる、などです。



れる状態です。扁桃腺周囲も含めてひどく腫れ、のどが詰まってしまう可能性のある危険な病気です。開口障害(口が開きにくくなる)、のどの奥にある口蓋垂(のどちんこ)が片寄る口蓋垂偏位がみられます。

#### ●扁桃周囲膿瘍

「扁桃腺が腫れる」とはよく言いますが、それは扁桃炎と呼ば

#### ●肺炎

細菌やウイルスに感染するほか、誤嚥など、さまざまな原因で起こります。咳や熱などの症状が3~5日以上続くようであれば、肺炎を疑いましょう。なお、診察は胸部レントゲン撮影を行って肺炎の有無を確認することが大切です。

### 風邪症状を呈する、頻度の高い病気

風邪症状を呈する病気には細菌やウイルスによるものがあり、それによって治療薬を使い分けます。発熱があっても、咳はなく、リンパ腺やのどが腫れている場合は細菌が原因のため抗菌薬が必要です。鼻(鼻水)、咽頭・扁桃(のどの痛み・腫れ)、気管支(咳)の3領域の症状が同時にいたら、発熱があってもなくてもウイルス感染症と考えられ、市販の風邪薬や咳止め、解熱薬などで様子を見ます。なお黄色っぽい鼻水や咳は風邪の後半にみられる症状です。よほど具合が悪くなければ、そのまま様子を見ていてもあまり心配はいりません。

### 風邪症状を呈する、治療可能な病気

#### ●インフルエンザ

38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れることが多いです。最近ではインフルエンザ薬も内服薬・吸入薬など種類が豊富になってきました。病院でインフルエンザの検査を受け、最適な薬を処方してもらってください。なお、インフルエンザの検査では、発熱から数時間は経過しないとなかなか陽性になりません。そのため、朝に発熱がみられたらその日の午後一番に、夕方や翌日であれば翌朝に検査を受ける、といったタイミングがベストです。

#### ●伝染性単核球症

子どもから30代の人に多くみられるEBウイルスによる感染症で

す。初期症状は、風邪と同じです。発熱、咽頭痛、後頸部リンパ節腫脹などがみられ、38℃くらいの熱が1~2週間続くことがあります。だいたいは様子を見ていただけでよくなります。抗生物質を服用すると皮膚に発疹が出ることもあるので、注意が必要です。

#### ●急性HIV感染症

感染2~8週間後にみられる早期症状は急性咽頭炎があり、発熱、皮疹、下痢、その他、伝染性単核球症と類似した症状が現れます。

### 医師の役割と受診のタイミング

風邪様の症状で病院にいらした方に対する医師の最初の役割は、重大な病気であるかどうかを見極めることです。また、次の症状があるときは「いつもの風邪」と思わず、受診をお勧めします。

- のどが詰まった感覚がある
- 口が開きにくい、扁桃が腫れている
- 熱が3~5日以上続く
- 症状が次第にひどくなっていく
- のどの腫れが首にまで広がっていく
- 急な高熱、関節痛がある
- 海外から帰国後に発熱した